

緑の配置方針について

趣旨

現行計画で位置付けている「緑の配置」に関して、①緑地の評価、②エコロジカルネットワークの評価を行い、**その機能が引き続き維持できているか、確認**したもの。

頂きたいご意見

- 緑地評価の方法（点数や評価項目）に対して
- 骨格の緑や拠点の緑など、緑の配置に関して
- エコロジカルネットワークの評価を踏まえた、緑の配置に関して

「現行計画の考え方」について

「土地利用における緑地評価」について

1. 緑地評価の方法

- 令和3年度都市計画基礎調査における「土地利用現況図」を使用。
- 平成19年度における評価と同様に、6つの項目の点数付け（1～3点）により、評価を実施（表1）。
- 合計得点に応じ、3つのランクに区分（表2）。

表1 緑地評価項目と点数

項目	点数			
	3	2	1	0
①微気象緩和	- 水田 - 主要河川（一級河川・準用河川）沿いの緑 10ha以上の緑地	- 左記以外の樹林地 - 左記以外で1～10ha未満の緑地	その他	－
②雨水流出抑制・都市型水害の軽減	雨水流出抑制区域図による浸水区域	- 左記以外で河川沿いの緑地 - ハザードマップによる浸水区域	その他	－
③防 災	- 防災マップによる広域避難場所、指定避難場所、避難所内の緑地 - 上記近接緑地 10ha以上の緑地	- 左記以外の防災協力農地 - 左記以外で1～10ha未満の緑地	その他	－
④生 物	- 自然環境調査（2007年）でのホットポイント - 湧水を含む緑地 10ha以上の緑地	- 水辺沿いの緑地（河川沿い含む） - 左記以外で1～10ha未満の緑地	その他	－
⑤レクリエーション	- 都市公園・農業公園 - みどりの広場 - 市民緑地	左記近接緑地	その他	－
⑥文化財景観	- 文化財マップ掲載緑地 - 文化課指定史跡等 - 斜面地（斜面地と重なる樹林地）	- 景観計画による特徴のある集落のまとまり - 景観資源ガイドマップによる探検隊おすすめを含む緑地	左記以外で野馬土手を有する緑地	その他

表2 評価ランク区分

評価	点数
ランクA	12～17
ランクB	9～11
ランクC	5～8

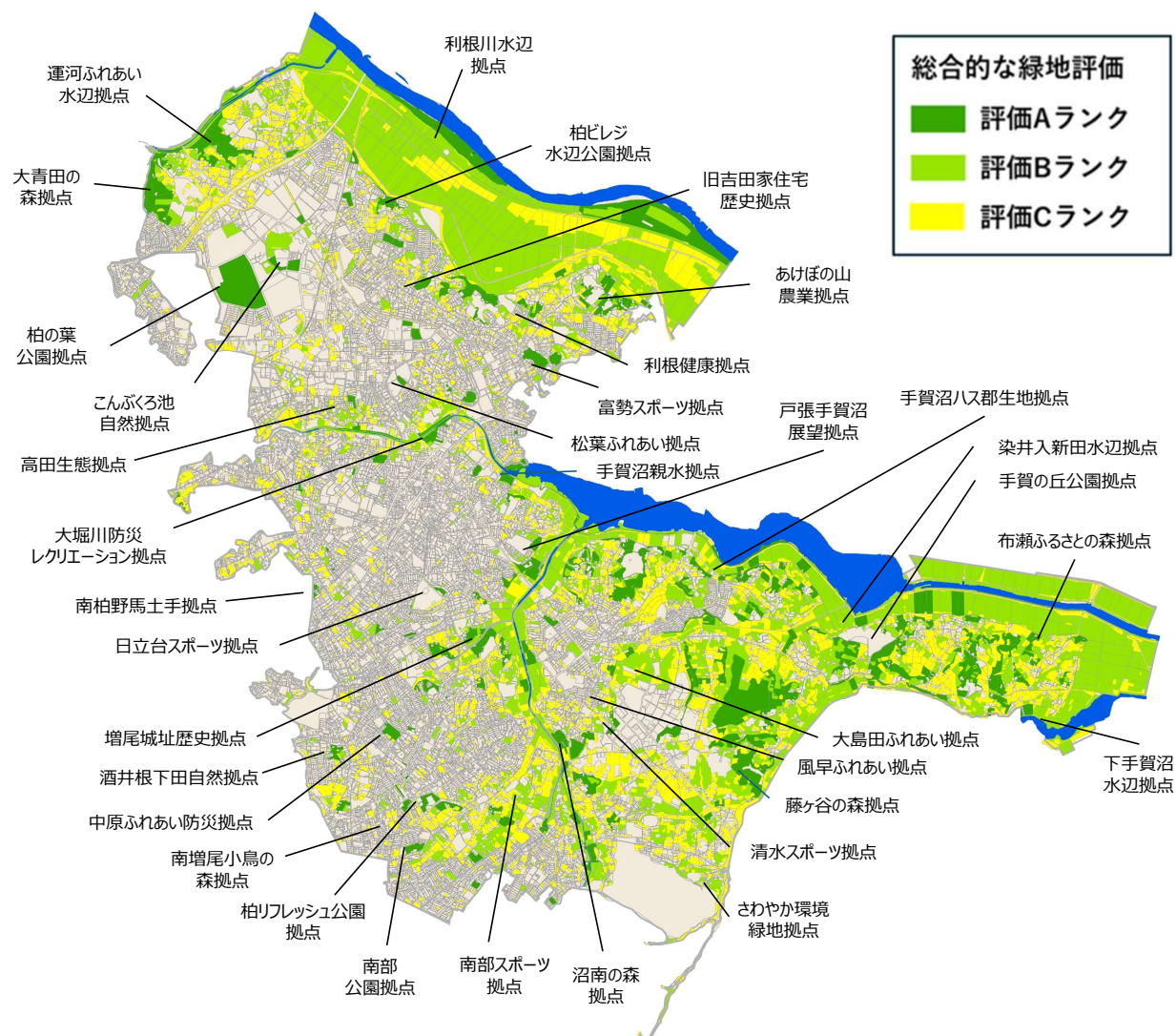
2. 緑の配置について

緑地評価の結果

H19年度における拠点の緑は、
R3年度における評価においても
概ねAランクとなった。

今後の方向性

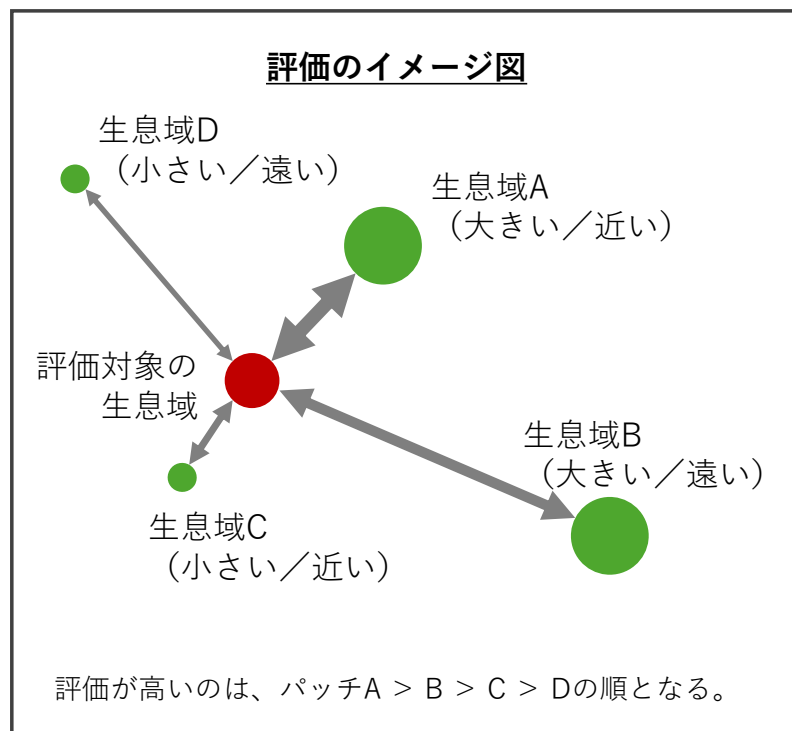
現行計画と同様の位置については、
次期計画においても
骨格の緑、拠点の緑として位置づけ
を行う。



「エコロジカルネットワーク における緑地評価」について

分析の方法

- ・ Hanski Connectivity Index (Hanskiの連結性指標) を採用して評価。
- ・ ある特定の生物が住むことができる生息地 (パッチ) に、「他の生息域 (パッチ) から、どれくらい生き物がやってきやすい状況か」を数値化したもの。
- ・ これは、要素①と要素②によって数値化され、点数が高いほど評価が高くなる。



$$S_i = \sum \underbrace{(\text{パッチ } j \text{ のサイズ})}_{\text{要素①}} \times \underbrace{(\text{距離による減衰})}_{\text{要素②}}$$

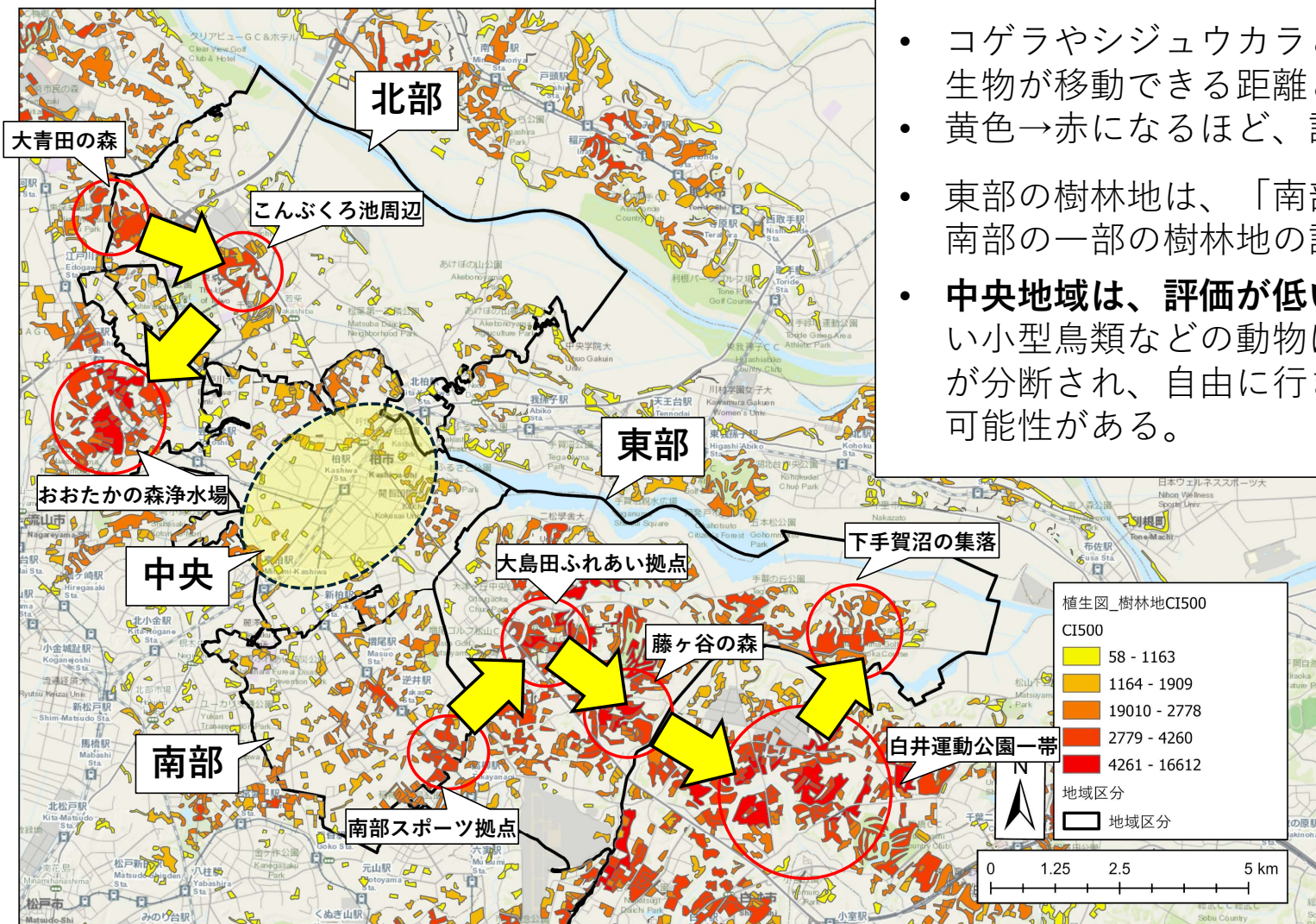
要素① 生息域の大きさが「住む生物の量」

周囲のパッチが大きければ大きいほど、そこにはたくさんの生き物が住んでおり、飛び出してくる数も多くなる。

要素② 生息域の距離が「移動のしやすさ」

パッチ同士の距離が近ければ近いほど、生き物は無事にたどり着ける。逆に遠いと、途中で力尽きたり天敵に襲われたりして、連結性は下がる。
※生息場所が孤立しているほど、生物の種類は少なくなります。

エコロジカルネットワークにおける緑地評価



- コゲラやシジュウカラといった小型鳥類などの生物が移動できる距離として「**500m**」を設定
- 黄色→赤になるほど、評価が高い樹林地
- 東部の樹林地は、「南部スポーツ拠点」など、南部の一部の樹林地の評価が高くなっている。
- 中央地域は、評価が低い。**移動能力が比較的高い小型鳥類などの動物は、中央エリアで生息域が分断され、自由に行き来できなくなっている可能性がある。

緑地評価の結果

- 移動能力のやや高い小型鳥類など、生き物の生息地として、**「現行計画における拠点の緑」は重要であることを確認した。**
- 柏駅周辺は、緑が少なく、小型鳥類やそれよりも移動能力の低い陸上性・徘徊性の動物にとって、**移動経路が分断されている可能性がある。**



今後の方向性

- 分析によって高く評価された生息地（現行計画における拠点の緑）は、**生き物の生息地として重要な「拠点の緑」**として、次期計画に説明を追記する。
- 柏駅周辺における緑の創出は、**生物の移動が分断されているネットワークを補強する視点としても重要であるが、まずは、都市的な緑を創出することを目的に、緑の創出を図っていくことを検討**する。